

東京地下鉄株式会社第62回社債(一般担保付)(グリーンボンド)レポーティング



東京メトロは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。



- 2024年3月11日発行の東京地下鉄株式会社第62回社債(一般担保付)(グリーンボンド)については、2024年4月末時点で、調達資金(発行諸費用を控除した後の手取金)の全額を対象プロジェクトの一部に充当しました。(下表①)
- 本社債の資金充当による環境効果は以下のとおりです。(下表②)

| SDGs | ICMA グリーンボンド原則 カテゴリー | 対象プロジェクト概要 | | ① 調達資金の充当状況(※1) | ② インパクト・レポーティング |
|----------------------------|----------------------------|---------------------------|---|---|---|
| エネルギーをみんなに もってクリーンに | クリーン輸送 | 新型車両導入 | 丸ノ内線2000系の 新型車両導入  | (新規)770百万円 (リファイナンス)154百万円 | <ul style="list-style-type: none"> ● 主な効果: 最新式の制御装置・LED照明等の採用等により従来の02系と比較して消費電力量を削減。 (1編成あたりCO₂排出削減量:152 t-CO₂/年)^(※2) ● 実績: 8編成 |
| | | 線路整備・改良・更新 | レール交換  | (新規)100百万円 (リファイナンス)1,795百万円 | <ul style="list-style-type: none"> ● 主な効果: 摩耗したレール等の交換を実施し、安全・安定輸送の維持に寄与。 ● 実績: レール交換延長40km |
| | | 運行関連電気設備(システム含む)の整備・改良・更新 | CBTC導入、CS-ATC更新、変電所の設備改良及びその他電気設備の整備・改良・更新 | (新規)3,936百万円 (リファイナンス)3,188百万円 | <ul style="list-style-type: none"> ● 主な効果: ①CBTC^{※3}の導入により、高い遅延回復効果の実現等質の高い安定した運行サービスを提供可能。 ②CS-ATC^{※4}の更新により、安全・安定輸送の維持に寄与。 ③変電所の設備更新により、鉄道事業用電力の安定供給に寄与。 ● 実績: 丸ノ内線においてCBTC導入のための工事を実施 銀座線においてCS-ATC更新のための工事を実施 変電所7箇所の設備更新工事を実施(うち1箇所完了) |
| | 合計 | | | (新規)4,806百万円 (リファイナンス)5,137百万円 (発行諸費用)57百万円 合計10,000百万円 (未充当金額 0円) | 2023年度単位輸送量当たりの CO₂ 排出量^(※5) 11g-CO₂/人・km <ご参考> 2022年度は12g-CO ₂ /人・km |

(※1) (新規)発行日以降に設備投資に充当した金額。(リファイナンス)2023年4月から発行日までの設備投資に充当した金額。(発行諸費用)本社債発行に伴って要した手数料。
 (※2) 丸ノ内線02系車両との比較。車両原単位(車両1両が1km走行するための電力消費量)や年間走行キロ等を基にした推計値。CO₂排出係数は、0.000390t-CO₂/kWh(電気事業者別排出係数)を使用。
 (※3) 無線を使用し、地上装置が各列車の位置を把握することで後続列車に走行可能な位置を伝え、後続列車自ら走行可能な位置及び速度を算出して、運行を制御する信号保安システム。
 (※4) レールに信号電流を流し、地上装置が各列車の位置を把握することで後続列車に走行可能な速度を指示し、運行を制御する信号保安システム。
 (※5) 東京メトロ9路線の実績。ひと1人を1km運ぶ場合に排出するCO₂の量を算出。